

(別紙5)

整理番号 2021P-108

補助事業名 2021年度 お年寄りが幸せに暮らせる社会を創る活動 補助事業

補助事業者名 高齢者と高齢者が住む地域の自己実現に向けた伴走活動

## 1 補助事業の概要

### (1) 事業の目的

高齢者の「困っている事・実現したい事」等の解決や自己実現を伴走し、成功体験による生活の質の向上、実践の中での仲間づくりによる人間関係の構築、さらには地域の中での活動へ展開していく事で多世代を巻き込んだ関係作りが期待できる。多世代を巻き込んだ関係性は、高齢者が抱える、生活上の不安や孤独、生きがい不足、生きづらさの解消に繋がり、高齢者の介護予防や住み慣れた地域で生活できる環境を整えることを目的とする。

### (2) 実施内容

#### ① アウトリーチ (<https://enjuen.or.jp/publics/index/45/>)

アウトリーチを積極的に行い、関係性を築くきっかけとした。相談窓口や訪問、声掛けを行った。住民の方々と関係性を気付くことができ、困り事や悩み事を聞き出すことができた。また住民の方々のやりたいをキャッチし、③自己実現伴走や④交流・サロンへと発展していった。その他にも、地域の小学校とともに福祉を学び考える福祉体験学習を行った。



訪問



小学校での福祉学習

歴木市営住宅のみなさんとのふれあい新聞

ふらっと歴木…私たちは、大牟田市建築住宅課、市営住宅管理センター、有明高寿、延寿苑、大牟田未来共創センターで構成された団体です。歴木市営住宅の皆さんの移転から新しい生活までを一層に考えていきたいと思っています。

# 井空・アモーレ

KEIRIN 00

この新聞は、豊輪の補助により作成しました。  
<https://www.ika-cycle.jp/>

コミュニケーションペーパー表題

(別紙5)

② 相談受付 (<https://enjuen.or.jp/publics/index/45/>)

地域巡回を行い、集会所を借上げ地域側に出向く出張相談所を設置した。そこに訪れた住民の方と対話の中で、生活に対する困り事を訪ねたり、やりたいを発掘していった。そこで見つかったものを③自己実現伴走や④交流・サロンへと発展していった。そして、交流・サロンの場でも対話の中から新たな困り事ややりたいを発掘していった。



地域巡回



出張相談窓口

③ 自己実現伴走活動 (<https://enjuen.or.jp/publics/index/45/>)

①アウトリーチと②相談受付へ見つけた困り事ややりたいに寄り添い自ら実現していただくため伴走型の支援を心掛け行った。また、特技や元職を生かしたサロン活動発展への支援も行った。



住民向け介護セミナー



特技を生かす活動（生け花）

④ 交流・サロン活動 (<https://enjuen.or.jp/publics/index/45/>)

①アウトリーチと②相談受付へ見つけたやりたいやしてほしいを交流の場やサロン活動に変換し行った。また、③自己実現伴走の延長に広めたいや一緒にする人を探すためにも活動した。



食事会



料理サロン

(別紙5)

⑤ 調査 (<https://enjuen.or.jp/publics/index/45/>)

主に②出張相談所や④交流・サロン活動の場において、住民の方にヒアリング調査を行っていった。



個別ヒアリング調査

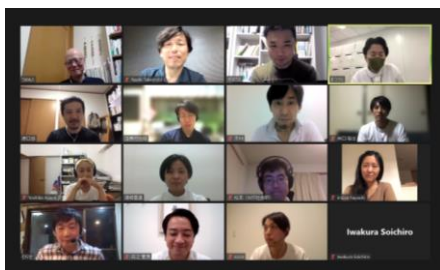


交流の場でのヒアリング調査

⑥ 人材育成 (<https://enjuen.or.jp/publics/index/45/>)

(<https://dialogue-eureka.jp/archive/hirameki-gensen-kakenagashi-ch/>)

有識者との鼎談動画作成、対話会の実施を行い、学びを深め事業活動へ活かした。



有識者との対話会



動画の表紙

2 予想される事業実施効果

今回の事業を通して、社会的課題は色濃いものとなった。日本社会全体でも課題とされている少子高齢化であるが、地方地域ではそれに加え、過疎化が進んでおり、地域のマンパワーは衰退している。ゆえに、いわゆる担い手不足が発生しており、高齢になっても地域の役を担っており、地方地域に暮らす生産年齢層（＝若者）に求められていることは多い。しかし、現状若者は仕事等に追われ忙しい日々を送っており地域の担い手としては求めることは難しい。また担い手になっていたとしても、負担は大きい。そこで、過剰な負担やその負担を軽減すべく、新しい地域組織の形として、市行政とともに当法人含む企業や団体が介入し、一部担っていくことは高齢者だけに止まらず、地域に住む住民の方々にとって暮らしやすくなると考えられる。また、企業や団体、教育、住民等との知識も備えていき、連携を図っていかなければならない。学びの動画等を活用しながら地域力アップを図る。また日々困り事ややりたいことなどの相談を受けながら個々の自己実現伴走支援や交流・サロン活動の必要性も大いに感じており、その前にあるアウトリーチ活動にも人材が必要と感じている。

予想される事業実施効果としては、前段にある地域のマンパワーを補う企業や団体、

(別紙5)

教育、住民等と継続的に連携を行うことで、地域力が向上しお年寄り及び取り巻く地域住民の方々が幸せに暮らせる社会を創れるのではないかと考えられる。まずは、いかに時代のニーズに沿い、有識者に協力をいただきながら、持続可能なものとしていくことが大切と感じている。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

ひらめき源泉かけながしch. 湯リイカ

[\(https://dialogue-eureka.jp/archive/hirameki-gensen-kakenagashi-ch/\)](https://dialogue-eureka.jp/archive/hirameki-gensen-kakenagashi-ch/)

コミュニケーションペーパー 井空・アモーレ

[\(https://enjuen.or.jp/publics/index/45/#block265-135\)](https://enjuen.or.jp/publics/index/45/#block265-135)

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 社会福祉法人福因寺福祉会

(シャカイフクシホウジンフクインジフクシカイ)

住 所： 〒837-0922

福岡県大牟田市今山4345-1

代 表 者： 理事長 井田真由 (イダマユ)

担 当 部 署： 特別養護老人ホーム延寿苑

(トクベツヨウゴロウジンホームエンジュエン)

担 当 者 名： 事務次長 竹本直樹 (タケモトナオキ)

電 話 番 号： 0944-51-2942

F A X： 0944-51-2983

E - m a i l： [info@enjuen.or.jp](mailto:info@enjuen.or.jp)

U R L： <https://enjuen.or.jp/>